

## 日本医師会最高優功賞並びに叙勲祝賀会



常任理事 平安 明



令和5年11月29日（水）午後7時よりザ・ナハテラス（アダン）において、「宜野座治男先生：日本医師会最高優功賞受賞・瑞宝双光章受章」、「嘉手苺勤先生：旭日双光章受章」、「小渡敬先生：瑞宝小綬章受章」祝賀会が執り行われました。司会進行は県医師会常任理事 平安明が担当いたしました。

沖縄県医師会 安里哲好会長からの挨拶に引き続き、中部地区医師会 中田安彦会長から宜野座先生のご業績を、南部地区医師会 涌上民雄会長から嘉手苺先生のご業績を、中部地区医師会 今井千春副会長から小渡敬先生のご業績をご紹介いただきました。先生方の素晴らしいご業績の内容は後述されておりますので是非ご一読ください。

次に来賓祝辞として、沖縄県保健医療部 糸数公部長の御名代の喜舎場健太保健医療企画統括監よりご祝辞をいただいた後、沖縄県医師会をはじめ、中部地区医師会、南部地区医師会、南部徳洲会病院から記念品・花束の贈呈がありました。その後、3人の先生方からご挨拶をいただきました。

引き続き、沖縄県医師会代議員議長の玉城信光先生の乾杯の音頭で懇親が始まりました。各方面からご参集いただいた方々との懇談や記念撮影等、大いに盛り上がりました。



## 挨拶

### 安里哲好沖縄県医師会会長



本日ここに、宜野座治男（ぎのぞ はるお）先生 日本医師会最高優功賞受賞並びに瑞宝双光章受章、嘉手苺勤（かでかる つとむ）先生 旭日双光章（きょくじつそう

こうしょう）受章、小渡敬（おど さとし）先生 瑞宝小綬章（ずいほうしょうじゅしょう）受章、祝賀会を開催いたしましたところ、多数の皆様にご出席頂き、厚くお礼申し上げます。

先生方のご業績は後程詳しくご披露されますが、宜野座（ぎのぞ）先生は「地域における保健医療活動」にご尽力されたご功績により、嘉手苺（かでかる）先生は「地域医療の充実・発展」にご尽力されたご功績により、小渡（おど）先生は「保健衛生活動及び精神保健福祉の向上」にご尽力されたご功績により、それぞれの賞を受賞されております。誠におめでとうございます。

コロナ禍を経て今年度より本会も通常の医師会活動に戻りました。当初未知のウイルスと言われた新型コロナウイルス感染症に、会員が一丸となって対応して頂いたことに改めて感謝申し上げます。

さて、1980年、沖縄県は男女ともに平均寿命日本1位を誇っていましたが、2020年には男性が43位、女性が16位にまで大きく後退しました。内容はこれから分析する予定ですが、2015年に分析した際、平均寿命順位後退の多くの要因は65歳未満働き盛り世代の健康状態の悪化に起因しました。

本会では、「働き盛り世代の健康・死亡率改善」を最重要課題の一つとして、今期は「適切な血圧を管理する地域社会づくり」等、4つの健康施策を展開しています。

また医師会の組織強化も喫緊の課題です。2021年12月時点の日本医師会組織率は51%と漸減傾向にあり、またその傾向は本県におい

ても例外ではありません。そのため、現在、会内に組織強化検討委員会を立ち上げ、会員数を増やすための、様々な取り組みを展開しております。

宜野座先生、嘉手苺先生、小渡先生におかれましても、今後ともその卓越したご見識によるご指導、ご助言を賜り、県医師会の会務運営並びに県民が希求する健康長寿社会の復活にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、先生方の今後益々のご健勝とご多幸を祈念して挨拶とさせていただきます。

## 業績紹介

### 中田安彦中部地区医師会長



この度の宜野座治男（ぎのぞ はるお）先生 日本医師会最高優功賞受賞並びに瑞宝双光章受章に際し、輝かしい数々のご功績の中から主なものを簡単にご紹介させて

いただきます。

先生は、昭和56年に山里整形外科を開設し、現在に至るまでの41年間に亘り地域住民の医療・保健・福祉等の向上に尽力されております。

とりわけ、中部地域の学校医として、生徒の健康管理や健康教育並びに教職員の健康相談等に努められたほか、集団予防接種の担当医も務められ、次世代を担う子供たちの健康保持増進に多大な貢献をされました。

また、先生は、中部地区医師会の役員として、13年間会務運営、事業推進にも尽力されました。

その他にも数多くのご業績がございます。

以上のことから、これまでの長年に亘るご功績が認められ、この度、表彰の栄に浴されております。

宜野座先生のこれまでのご労苦に対し、心から敬意と感謝を表しますと共に、これからもご健勝でご活躍されますよう祈念いたします。

この度の受賞、誠にありがとうございます。

**湧上民雄南部地区医師会長**



この度の嘉手苜勤（かでかる つとむ）先生 旭日双光章受章に際し、輝かしい数々のご功績の中から主なものを簡単にご紹介させていただきます。

先生は、平成元年4月から令和4年6月までの33年余、南部地区医師会役員を務められ、会館建設や老人保健施設の設立・運営に多大なる貢献をされたほか、学術・生涯教育担当理事や老人保健（介護保険兼務）担当理事として、本会の会務運営、事業推進に尽力されました。

また、南部徳洲会病院においては、脳神経外科医として一般外来の診察・治療を行うのみならず、休日や夜間、時間外の緊急手術にも対応するなど、南部地域の医療提供体制の構築に多大なる貢献をされておられます。

その他にも数多くのご業績がございます。

以上のことから、これまでの長年に亘るご功績が認められ、この度、表彰の栄に浴されております。

嘉手苜先生のご苦労に対し、心から敬意と感謝を表しますと共に、これからもご健勝でご活躍されますよう祈念いたします。

この度の受章、誠におめでとうございます。

**今井千春中部地区医師会副会長**



この度の小渡敬（おどさとし）先生 瑞宝小綬章受章に際し、輝かしい数々のご功績の中から主なものを簡単にご紹介させていただきます。

先生は、昭和62年に平和病院を開設されて以降、国内初となる入所型授産施設を開設したほか、介護老人保健施設や障害福祉サービス事業などを開設・運営され、本県の精神医療・福祉の向上に貢献をされております。

また、中部地区医師会や沖縄県医師会の役員

も務められ、会務を通して本県の医療、保健、福祉の向上に多大なる貢献をされております。

さらに、学校医や集団予防接種担当医として地域保健活動に貢献されたほか、沖縄県精神科病院協会会長として、県内精神科病院の連携体制、組織強化に尽力されております。

その他にも数多くのご業績がございます。

以上のことから、長年に亘るご功績が認められ、この度、表彰の栄に浴されております。

小渡先生のご苦労に対し、心から敬意と感謝を表しますと共に、これからもご健勝でご活躍されますよう祈念いたします。

この度の受章、誠におめでとうございます。

**来賓祝辞**

糸数公部長ご挨拶（代読：喜舎場健太統括監）



宜野座治男先生日本医師会最高優功賞受賞及び瑞宝双光章受章、嘉手苜勤先生旭日双光章受章、小渡敬先生瑞宝小綬章受章祝賀会の開催にあたり、御挨拶を

申し上げます。

宜野座先生、嘉手苜先生、小渡先生、この度の受章、誠におめでとうございます。

心からお喜び申し上げます。

先生方の業績については、先ほど詳しくご紹介がございましたので詳細は割愛しますが、宜野座先生におかれましては、医療機関への通院が困難な患者宅への往診を積極的に行う等、40年以上にわたり現在の在宅医療にあたる地域医療活動に取り組み、その推進に大きな御貢献をいただきました。

嘉手苜先生におかれましては、南部地区医師会の役員を30年以上勤め、医師会事業の会務運営、事業推進、発展に大きく寄与されました。

小渡先生におかれましては、沖縄県精神科病院協会会長として県内の民間精神科病院をまとめ、災害派遣チーム（DPAT）、精神科救急体制の整備など、精神保健福祉の向上に御尽力されました。

3名の先生方におかれましては、本県の地域

医療の向上に多大な御貢献をいただき、その御労苦に対して敬意を表するとともに、この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

今後とも県民の健康増進のため御活躍いたくとともに、これまで培ってこられた豊かな経験を生かして、後進の育成にも御尽力いただきますようお願いいたします。

さて、県では広範かつ継続的な医療の提供が必要な5疾病、5事業、在宅医療の充実及び医療従事者の養成・確保など、医療計画に位置づけた取り組みを関係者との連携の下、着実に進めていくことが重要であると考えております。

本年度は新たに新型コロナウイルス感染症をはじめとした新興感染症への対応を追加した第8次医療計画の策定に向けた作業を進めているところであり、本計画の策定にあたっては、県民ニーズに即した医療サービスを提供するため、医師会との連携が非常に重要であると考えております。

医師会と十分意見交換を図りながら、これらの業務に取り組んでいきたいと考えておりますので、引き続き御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、今回栄えある表彰を受けられました宜野座先生、嘉手苺先生、小渡先生の益々の御活躍及び、沖縄県医師会会の御発展並びに御列席の皆様御健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

## 謝辞

### 宜野座治男先生



今回はいろいろとありがとうございました。

大学を卒業してから50年以上になりました。大学の医局を通して7～8年トレーニングをして、沖縄に参りました。

当時、昭和50年前後はちょうど水俣病が喧伝されている時期でした。その時、水俣市立病院に派遣され、その現状を見ながら、判定のしかたや客観性に問題があるのではないか、症状だけで診断するという中で疑問を感じることもありました。

いろいろと過ごしている間に、沖縄も整形外科が不足だということで、病院長はじめ関係者が職場にまでもよく来てくださったので、昭和54年に那覇病院に帰って参りました。当時病院の医局では、浦添や豊見城に病院が少なかったため、浦添総合病院を作る、豊見城中央病院を作るといったそれぞれの計画がある中で、自分は開業するのか、勤務医で務めるのか、それとも新しい病院に行くのか、将来どうなるかということで非常に悩んだときもありました。

それと前後して、当時の田中角栄総理大臣が全国、各県に医科大学を設置するというので、昭和56年に琉大の医学部が設置されました。こんな小さな沖縄に大学ができるとうなるのだろうか、勤務をしている時の主体性はどうか、開業すると自分の主体性がいかせるのではと思い、いろいろ考えましたが、昭和56年末に19床のベッドをもって開業しました。

当時は病院も少なく、整形外科として頸部骨折も多いし、病棟も忙しかったのですが、頸部の外側骨折などは、人工骨頭とか外部固定などはよくやっていました。

自分も仕事をこなしながらでしたが、中部地区医師会に入りますと、会館建設や資金集め、集団予防接種に学校健診と非常に忙しく、開業当初は健診で勝連の方まで行くこともよくありました。そのように、自分の仕事と医師会の活動を数えてみると、あっという間に40年が過ぎて、叙勲と日医最高優功賞を頂き、栄誉に浴したことは望外の喜びであり厚くお礼を申し上げます。

自分の歩んできた40年の経過をここにお祝いして頂いたことを感謝いたします。ありがとうございました。



宜野座先生（勲記・勲章）

嘉手苺勤先生



皆様、本日は多数ご出席くださりありがとうございます。ごさいます。

私がなぜ脳外科医になったか、なぜ南部徳洲会病院に勤務しているかということについてお話

したいと思います。

皆様ご存知のとおり、国費制度に受かり、その面接では、面接官に「寒いところは嫌だ」と伝えましたが、発表されたのは新潟でした。新潟は3月でも雪一面でしたが、教科書で習った新潟・上越の風景よりは、市内は思ったよりも雪が少なく、現地の人に驚かれるぐらい薄着で行っておりました。

大学を卒業して何を専攻しようかと考えた時に、みんながやっていないことをしようと思ひ、新潟で脳外科をやると決めました。新潟大学の脳外科は脳研究職があり全国でも有名で、中田瑞穂先生という有名な先生がいらっしゃり、そこで脳外科を専攻しました。

そこで半年が経ち、秋田県へ出張に行きました。秋田県は脳卒中による死亡率が高く、脳血管研究センターもあり、特にマイクロサージャリーが始まった頃だったので、秋田赤十字病院でマイクロサージャリーを見せてもらいました。そこには神経放射線の先生など有名な方がおり、普通、出張は1年ですが3年半もいて、脳出血の手術をかなりこなしました。そこで神経放射線やマイクロの技術を覚えました。最近では脳血管内治療ということで、若い人たちは4～5年経つとある程度の領域に達しますが、開頭手術でクリッピングとなると10年ぐらい経たないと一人前になれません。そういったこともあり最近、外科系を目指す人が少なくなり、特に脳外科医は最たるもので沖縄も非常に困っています。

その後、また新潟大学に通い病棟勤務を経て、外の病院で専門医試験に通った時に大学を辞め、福岡の病院で脳外科の専門を作るところに手伝いに行きました。

私の父が久米島出身で、1982年に叔母が脳出血で南部徳洲会病院に運ばれました。見舞いに行った時に、まだ脳外科がオープンしていない時だったのでカルテを見ると、2時間から3時間かけて県立中部病院に運ばれていた状況でした。

本当は秋田でもう少しマイクロを勉強しなかったのですが、あの頃は県立中部病院以外24時間脳外科をやっていなかったもので、まだ若輩者の32～33歳のころでしたが、自分でできる範囲でやろうということで南部徳洲会病院に就職しました。その頃の研修医たちにも手伝ってもらい非常に助かりました。

その後、南部地区医師会の勉強会によく出ていて、中村義清先生に誘われて1989年に南部地区医師会の理事に就任しました。その際、「君は徳洲会の代表ではなく、勤務医の代表として生涯教育や勤務医活動をやってくれないか」とのお話がありました。

その後、介護保険が始まり介護保険担当理事となり、また老人保健施設も見ながら33年間も理事を務めました。33年というと地区医師会でも県医師会でも一番長い方ではないかと思っています。

いろんなことがありましたが、地区医師会や県医師会の理解のおかげで33年も続けさせていただきました。

その中で大きな仕事としては、沖縄県医師会が担当した全国医師会勤務医部会連絡協議会など、部会長として非常にいろんな経験をさせていただきました。

南部地区医師会と県医師会の皆様には感謝しております。ありがとうございました。



嘉手苺勤先生（勲記・勲章）

小渡敬先生



今日は我々受賞者のためにこのような立派な会を催していただきありがとうございます。

受章にあたって、大変恐縮しています。一言でいえば身に余る光栄であります。

私がやり遂げたものは、私だけではなく病院のスタッフをはじめ、医師会の先生方のおかげだと考えております。

私は精神医学が専門で、精神医療をやろうと昭和 60 年に沖縄に帰り、昭和 62 年に平和病院を設立しました。病院の理念に新しい精神医療をやるんだということを掲げて開業しました。私としては、日本の精神医療を変えてやろうという気持ちで病院を作ってきたつもりで、気が付いたら 36 年過ぎています。この状況は、ぜんぶ成就したとは全然思っていませんが、その間、精神科の医療は変わってきました。

精神科の医療が変わってきたということは、一般科に近づいたということです。特殊なものではないということとみんながわかるということが新しい医療だ、ということとを皆で話しながらやってきました。そして、沖縄から変えていくんだという気持ちで精神科病院協会のスタッフをはじめ各病院の先生方が今も頑張っています。

そして全国を変えていくためには、まずは九州から変えていかないと考えており、九州の先生方も沖縄が何かしようとした時には協力してくれるという状況にまで来ています。

ただ、時間だけが過ぎて年をとってしまいました。非常に残念であります。しょうがないなと思っています。これからも頑張っていきたいと思っているので先生方のご協力をお願いいたします。

今回、皇居に初めて行き、天皇陛下に拝謁してきました。よく、先生方が「天皇陛下にあって身の引き締まる思いをした」とおっしゃいますが、私も多少は身が引き締まりました。生まれて初めてモーニングを着たのが一番引き締まりました。良い写真が撮れてるのはと期待しています。今日も結婚式のように会場に入場して身が引き締まっております。

どうもありがとうございました。



小渡先生（勲記・勲章）



祝賀会の様子